

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動[]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	出動した者の年齢、勤続及び現場経験年数は多岐にわたり、同様な活動は初めての者と過去に1、2階程の者がいた。

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	警察官及び関係者	要救助者が地上に降りるように説得	
経過2	隊員3名	ロープを使用し屋根上に安全マットを引き上げ	要救助者の行動を観察しながら
経過3	要救助者	煙突の天辺に座っていた要救助者が、説得に応じ煙突を降り始めた	
経過4	隊員3名	安全マットを屋根に引き揚げたところで、要救助者が説得に応じたため、飛び降り等の危険に備え屋根上の身を隠せる場所に身を隠した。	
経過5	要救助者	屋根から高さ約2mで屋根の安全マット目掛け飛び降りた	安全マットが屋根の勾配のため30cmほど移動した
経過6	隊員3名	身を隠したいた隊員が直ぐに安全マット及び要救助者を確保した	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：要救助者は自殺志願者ではなく、精神疾患の問題を抱えており、要救助者本人は遊んでいるような感覚であったため、行動の予測がつかなかった。要救助者を刺激しないように観察しながら活動したため、十分な準備ができなかった。
--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

